

量販店における青果物の評価基準並びに流通チャネルの選択意志決定

[要約] 量販店の青果物評価は、「品質」に非常に大きなウェイトを置いており、中でも「品質の安定」を求めている。また、市場からの予約相対取引はセリや産直契約より多くの評価項目で優れており、最適な流通チャネルとして選択している。

三重県農業技術センター経営部・経営担当

連絡先

05984-2-6356

部会名

経営

専門

経営

対象

青果物

分類

指導

[背景・ねらい]

販売・消費のニーズに対応した青果物の生産方向を明らかにするため、量販店の青果物仕入れ決定要因と評価基準並びに市場流通・産直等の流通チャネルの選択基準について、全国及び地方展開している7量販店へのAHPによるアンケート調査を通じて解明する。

[成果の内容・特徴]

1. 量販店における青果物（産地）の評価

1) 青果物仕入時に考慮する要因である品質、価格、量について、AHPにより重要度を解析したところ、品質の重要度が0.69と非常に高い値を示し、中でも品質の安定の重要性が高い。価格は最も重要度が低いが、低価格より値頃感を求めるという最近の状況を反映した結果である。また、量についても重要度が低いものの、大量供給より量の安定を求めているという結果である（図1）。

2) 量販店間の規模の違い等による評価基準の重要度の差はほとんど見られない。

3) 量販店に対応するには、産地全体として「品質の安定」を最も進める必要がある。

この「品質の安定」は産地の評価を最も有効に高めることができる要因である。

2. 量販店における青果物の総合的仕入基準と流通形態の選択

1) 青果物仕入時の3つの取引方法（セリ、予約相対取引、産直契約）の選択についても、6つの評価基準を基にAHPにより比較を行ったところ、予約相対取引が0.48と高い値で選択される。6つの評価基準の重要度では、やはり品質が0.32と高い値を示したが、量+品揃えも0.24と比較的高く、価格の重要度は非常に低い（図2）。

2) 6評価基準の内、価格、量・品揃え、情報宣伝、つきあい、配送分荷機能の5評価基準について予約相対取引が優れていると評価されているが、品質については産直契約の評価が高く、品質要求が更に高まれば産直志向が強くなると考えられる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

生産者自身が、青果物の評価と重要な取引要因並びに優位な取引方法を常に把握し、効果的な生産流通体制の確立等を通じて産地の評価を向上させる努力が常に必要である。

[具体的データ]

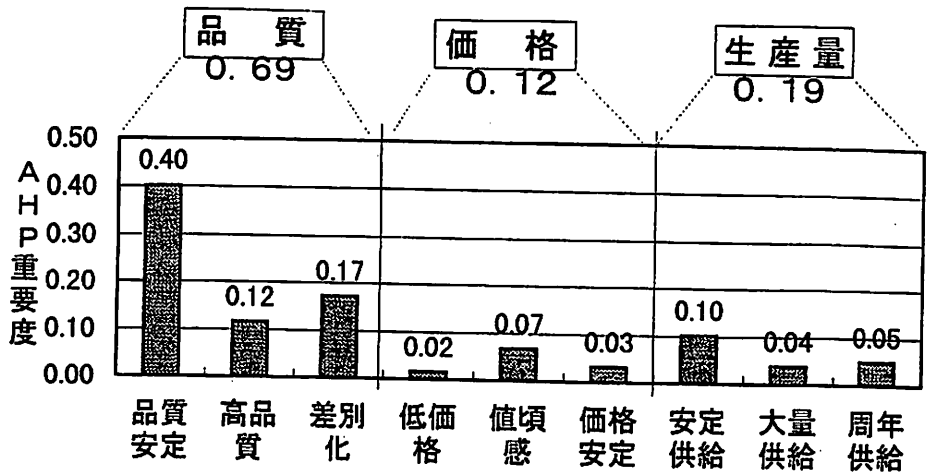


図 1 量販店における青果物(産地)の評価基準と重要度
注)三重県下の7量販店チェーンの調査

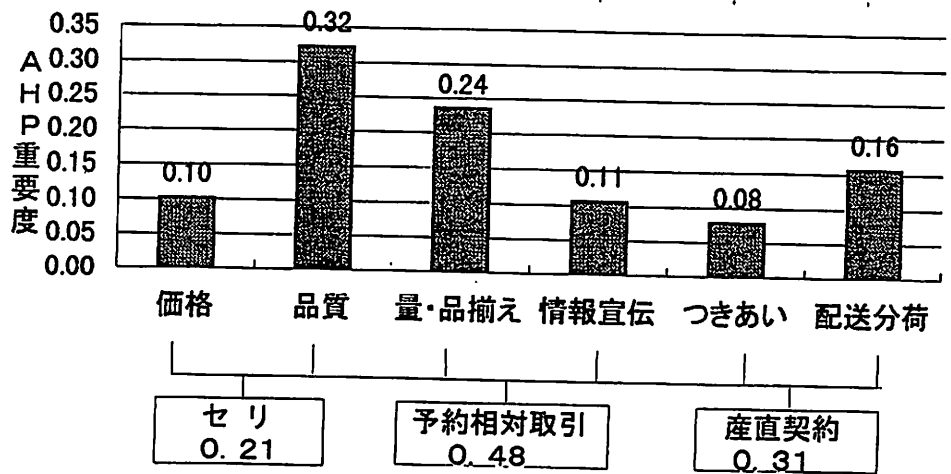


図 2 量販店における流通チャネル選択基準の重要度と代替案

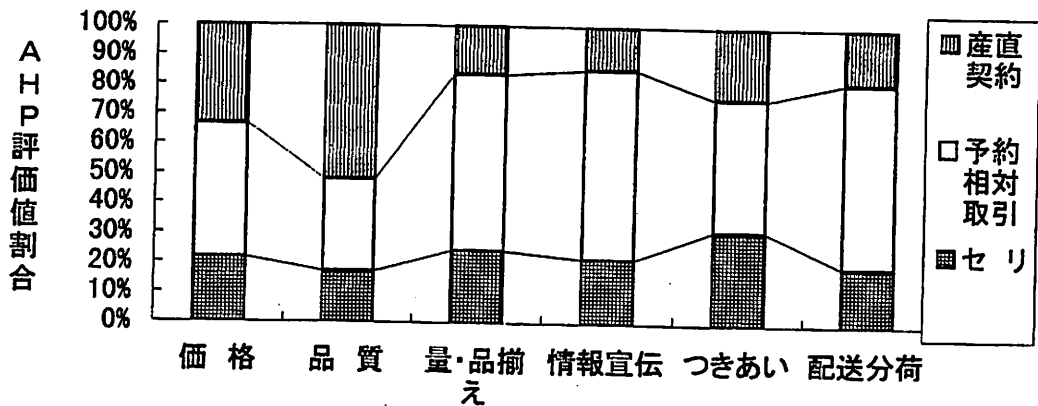


図 3 量販店における流通チャネルの選択基準項目別の代替案評価

[その他]

研究課題名：青果物流通販売における仕入れ決定要因と評価基準の解析

予算区分：県単

研究期間：平成8年度（平成8～10年）

研究担当者：大泉賢吾、佐藤吉彦